レッスン：PYR 90

テーマ：質疑応答

PYR 90 KE08 No.13 S321/05

私の姉妹・兄弟たちよ。

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

質疑応答を続けます。

Q：意識を純白のサイドの中の高次ノエティカル体に転送するエクササイズがありますが、そこからピラミッドの真ん中に立っている自分の身体を見ます。実際に何を見ているのですか？

Ｋ：意識を高次ノエティカル体に転送するとき、あなたの意識の一部分がそこに移行します；そして目の前にある自分の現在のパーソナリティーを見つめ、それを分析します。言い訳をすることなしに。なぜならその体から、あなたは正しい思考を現し、その波動のなかで高次ノエティカル体だけを使用することができるからです。

**現在のパーソナリティーは高次ノエティカル体の中にいる間、内省をします。**

**そしてその体にいる間、現在のパーソナリティーは完全に分析することができます；**

**そこでは人間の理解からではなく、ディバインの法則から“理解”することができるので、あなたは何が正しくて何が間違っているかがわかるのです。**

**それがピラミッドの真ん中に立っている時に、純白のサイドにある体の中から達成できることです。**

**違いは、このポジションから内省を行うことによって、日常生活における、又は起きている時の自分の行動に関する言い訳を避けることができるということです。**

Ｑ：頻繁にこれを行うことを勧めますか？

Ｋ：はい、しかしこのエクササイズに先立って行うべき他のエクササイズもあります。

頻繁にやるべき最も重要なエクササイズはエーテルの特質をマスターするためのエクササイズです；感覚エーテル・運動エーテル・刻印エーテルです。

見ることが可能になるためには、ある程度まで（勿論完全にというわけではありませんが）刻印エーテルを使うことができ、何であれ自分が創造するものを見ることができるべきです。そして勿論、後には見ることができるだけでなく、感じることができ、何であれ自分が創造するものに触れて感じることができるようになるべきです。勿論、今は早すぎますが、しかし見ることができるようになるのは、今生においても真剣な探求者なら達成可能です。

Ｑ：私たちが自分の意識の一部分を投射するとき、それは私たちのサイコノエティカル体の一部を投射するのですか？

Ｋ：**意識はサイコノエティカル体ではありません。それは実際Lifeです。しかし､Lifeのスパークではなく、それはサイコノエティカル体の１つの現れです。**しかし、この現れが高次ノエティカル体に入ると、それはあなたのセルフの部分としてのヒポスタシスとなります。しかしそれは純粋なセルフです。その現れは純粋です、なぜなら高次ノエティカル体の中にあるからです。そして現在のパーソナリティーを活性化させるLifeのスパークの体と同じです；それはLifeの体です。

Q：それはもっとも美しい体と言われたものですか？

Page2

K：はい、勿論そうです。それはLifeのもっとも美しい体です。それはLifeの本質を完全に現している全てのイデアのものです…それが聖霊的なものであろうと、Lifeのイデアフォームであろうとも。

Q：サイコノエティカル体がスパークの中に入ると、それはいわゆる尼僧と修道士から“神秘的な結婚”と呼ばれているものですか？

K：違います、神秘的結婚などと呼ばれるものはありません。きちんと理解しましょう。キリスト教会はあなた方がここで受け取っているリアリティーを知らないのです…現在のパーソナリティーに関するリアリティーについて。彼等は転生を受け入れておらず、また存在の諸世界についても知りません。彼等はこの世界から去った現在のパーソナリティーは神の所に行って神の審判を受け、その後にいわゆる天国または地獄のステートに入ると考えています。彼等はそのように理解しています、なぜなら彼等は紀元520年に全キリスト教会の宗教会議で、転生という信念を拒否したからです。

　最近はカトリック教会は転生という問題を問題とはしなくなり、それは正しい方向への第一歩と言えます。教会のメンバーの中にはそれを（＊転生）を受け入れる人もいますが、しかしそれを公表しません。それは反対派からの攻撃を受けたくないからです。

　人間は昔から、そして現代でも自分達の理解に基づいてヘブンを低めています。なぜなら人間は大部分、自分達の頭で理解できることだけを信じるからです。彼等はあるパーソナリティーを見て、そしてそのパーソナリティーが肉体を去ると、もはやその人を見ることができません。彼等は何が起きているか知らないのです。なぜなら目で見ることができないからです。そして彼等はそれは終わりだと言い、それを受け入れます。彼等は疑問を抱いて考えることをしません；人々は教会に行き、同様のことを聞くのです。

Q：人間の進化の道のいくつかの段階において、火は大きな役割をするように思われます。

K：主は火です！水の洗礼は人間にとっての例となっています。最初、イエスは洗礼を受けるのを拒否しました。しかしその後、彼は非常に多くの人々が水の中で洗礼を受けるつもりであることを見て、彼は他の人々にとっての例としてそれを受け入れました。彼の地上においての役割は人間を導くことであり、彼は時には普通の人間として自らを表現して、“天なる父は自分よりも強い”と言い、別の時には彼が神として話すときには“私の父と私は一つである”と言いました。

　そして十字架の上でも、彼は神として痛み、苦しみを感じたと思いますか？彼は人間としての自分を現していて、他人を助けるために主の名前において十字架を背負おうとする全ての人々に、例を与えていたのです。そうです、彼等は痛みを感じるでしょう、さもないと人々は苦しみの軽減を感じないでしょう…主は創造界全体において全ての人間の痛みを軽減してくれますが。

　そのステートで、イエスキリストは十字架上で痛みの中にいるように見えました。彼は実際、他の全ての同胞の人間達のために話していたのです。彼は実際自分自身に話していたのです…彼を十字架にかけた人々を許すために。なぜなら彼等は自分達が何をしていたのかを実際には知らないからです。ですから、何であれイエスキリストロゴスに関係ある全て、それらは寓話として示されました；たくさんの説明があります。

　彼は痛みを感じている人です。彼は弟子達に言いました…「あなた方は私が苦しみ、飢え、貧困、その他多くの状態にいるのを見てきた」と。そして弟子達は答えました…「しかし先生、私たちはあなたがそのような状態にあるのを一度も見たことはありません」と。するとイエスは答えました：**「あなた方は非常に多くの他の同胞の人間達がそのような状態にあるのを見てきたが、その時あなた方は私を見ていたのだ」**と。ですから確かに、主の名前において十字架に架けられた人々がいますが、しかし十字架に架けられたのは主、イエスキリストなのです。それ故に、肉体が必要なのです。

　イエスキリストロゴスは神です、**なぜなら今でも主は全ての人の内側にいるからです、**そして今この瞬間においても、イエスキリストロゴスはこの創造界における無数の惑星上で彼自身を現しています。彼の誕生の瞬間から彼が十字架に架けられるまで何であれこの地球上で起きた事は全て、地球でのその出来事以前にも起き、そして将来も新たな無数の惑星上で起きることでしょう。

　これは人類の一般的気づきがある特定のレベルに到達すると生じ、その時にはイエスキリストが誕生し、人々が魔術、マジックの実践から離れるようにするために、アガピの道へと導くのです。彼は魔術の結果としての創造的エーテルの権威すらも取り去りました。なぜならそれが破壊のために使われ始めたからです；そうです、人々はお互いに闘うために創造エーテルを使用していました；この創造エーテルの使用によって地球上で文明が完全に破壊されたのです。そのパワーと比べたら原子爆弾など比較になりません。

Page3

イエスキリストロゴスは汎宇宙的キリストロゴスであり、それらは一つです。そしてそれは生命の木の上では創造の諸世界の中にある大きな三角形で示されています（＊一番上の上向きの三角形と底辺を共有している下向きの大きな三角形）。それは実際､彼自身の中で彼自身を現している神なのです。**そして私たち一人一人は彼、つまり主の部分なのです**；**私たちの内側にあるLifeのスパークは彼なのです。**

**創造界における全ての人間は神、主であり、これは理解するのが非常に難しいことですが、しかしそれが真実なのです。**

なぜなら、何であれ最大のものはまた最小のものでもあるからです。

**多くの神々がいるのではなく、唯一の神だけが存在するのです。**

Q：イエスキリストロゴスとseventy-two（＊72）との関係はどのようなものですか？

K：セブンティートゥとは惑星全体が自己実現した星から来た自己実現した存在達であり、かつて宇宙人として活動していました。彼等自身の星の太陽系以外の他の太陽系内の進化成長の途上にある星の住人にいろいろな問いを起こさせるために、彼等は以前はいわゆる惑星外人間（＊宇宙人）として活動していました。その使命とは、それらの星の住人たちに、その星以外にも人間がいるのかどうかという問いを生じさせることです。

　そして彼等の使命、ミッションが終わると、特定の惑星の全ての自己実現した存在達はセブンティートゥのグループを形成し、新しい原始的な惑星に来て、そこの住民と同じような人間としてそこで暮らします。唯一の違いは、その星の初めての転生からすでに彼等は自己実現した人間の全ての能力と可能性を保持していたということです。そしてある期間が過ぎると、また交代し、そしてそれは何十億年後の現在でも続いています。なぜなら彼等は助けるためにここに来ているからです。彼等も痛みを感じます、さもないとその星の住民達のために十字架に架けられる（＊苦しみを背負うこと）ことが不可能になるからです。

　ロゴス、神は全ての人の中にあるように彼等の中にもあります。しかし、彼等においてはそれが超意識的に現れていて、もし例えば高次ノエティカル体やノエティック体を使用する時には、そこにはpersonality-man（＊パーソナリティーとしての人間）ではなく完全に主がいます。しかし、それは稀なことです。通常は高次ノエティカル体と共に表現されるのはpersonality-manです。そしてこれがseventy-two とイエスキリストロゴスの関係です。

**seventy-twoが奉仕している惑星が自己実現に到達すると、seventy-twoの彼等は存在の諸世界に入り、他の能力のなかで奉仕します。最初のサイクルから自己実現した人間として、一つの惑星上にいる他の人間達と共にいる彼等は、諸宇宙の中において主の名前において果たすべき役割があります。実際それは主、それは神であり、それは主の聖なる慈悲なのです。**

　Seventy-two という数に関しては、私はその理由について皆さんに話すことが許されていません。なぜなら数秘学は魔術においても使用することができるからです。そしてドミニオンズ（＊主天使）とseventy-twoの間には関係はありません。

Ｑ：純粋な量を現すことができるのはイエスキリストロゴスだと言うことができますか？

Ｋ：純粋な量？主は全体の現れです、しかし全体の中のモナドでさえ、それもまた主なのです。いいですか、それは量の問題ではなく、質の問題です。海それ自体からそこにおける一滴の水の質を分けることができますか？そういうことです。そして一滴の水にはそのワンネスの中に多重性があります；そのワンネスと共にその多重性があるのです。

　私たちはイエスキリストロゴスはLifeの海だと言います。しかし、同時に私たちは私たちのモナドセルフの海でもあるのです。

**なぜならLifeのスパークとして、私たちが自己実現に到達すると私たちは自分の真の本質を現すことができ、その時には多重性の能力を持ちます；**

**私たちは意識を、そしてヒポスタシスを、自分の体の多くの同一体を同時に無数の場所に投射することができます。**

**数に制限はありません。そしてそれらの無数の同一体のそれぞれが同時に異なった仕事を行うことができます。**

これがLifeなのです；それは**肉体脳による理解を超えています。**科学が達成したこと、そして宗教ですらLifeを非常にちっぽけなものにしています。彼等はイエスキリストロゴスさえも非常に小さくしており、Widest of Heavens にしてもちっぽけなものにしています。彼等は神をその本来の状態で崇拝していません。しかし、時が過ぎて、いつか真実がわかる時が来ることでしょう。

Q：私たちは火の洗礼と火のエレメントについて話しました。それに関して話してくれますか？

Ｋ：火とはLifeです；しかしどの火でしょうか？触媒としての火でしょうか？違います。高次のレベルにおける火のエレメントは育むようなエレメントであり、もっともっと高次のレベルに行くとそれはLifeです。

Page4

最初はクレンジング（浄化）です、しかし実際全てのエレメントは、たとえ低次レベルの波動においてさえ火なのです。最初は全てのエレメントは浄化であり、水のエレメントでさえも低次の波動では火なのです。全ては火であり、火から全てのものが続きます。皆さんもスピリット、光そして火の子供達なのです。

　火における洗礼は最大のミステリー（神秘）であり、それはロゴスご自身から人間に対して行われます。そしてそれがペンテコスト（五旬祭）で彼の弟子達に生じたのです。それは火における洗礼の始まりです。

　これは現在のパーソナリティーが3番目のサイクルをマスターして終了し、4番目のサイクルに入る準備ができた時に起きることです。

言い換えれば、3番目のサイクルで意識的に生きる代わりに、5つの真の感覚の使用をマスターした後、火の洗礼の始まりの瞬間から4番目のサイクルに入り、超意識的意識のセルフエピグノシスを現し、超意識的に生きることがスタートし、その瞬間から先は真の五感を完全に使用します。

残念ながら､キリスト教のなかでも人々はそれについてあまり知っていません。

　彼等は聖なるコミュニオンの大きなミステリー、神秘について話していますが（それは比喩的に主から与えられてきたものですが）、実際には彼等はそれを認識していません。そのステートでは、キリストが十字架の上で苦痛のなかにいるように見える時、彼は実際は他の全ての同胞の人間達として話していたのであり、実際は自分自身に話していたのです…彼を十字架に架けた人々を許すようにと。なぜなら、彼等は自分達がしていることを知らなかったからです。ですから、何であれイエスキリストロゴスに関する全ては、比喩的に書かれています（＊聖書において）。しかし、実際にはそこでの書き方は本来の目的を果たしていません。勿論、人間によって非常に多くの様々な解釈がなされています。

　非常に多くの転生の後に（何千回もの転生さえもあり）、

**皆さんは一つの惑星から他の惑星へとどれほど多くの転生を地上で経てきたかを比較することができません。**

なぜなら、人間には自由意志があるからです。そしてまた、誰も他の人間が何を体験してきたか、あるいは他の惑星を通じて自己実現したかを説明する権利はありません。

　いいですか、今皆さんがファンタジーだと思っていることは、いつか実際に起きるでしょう。そしてさらには、人類が進歩成長していくので、彼等のファンタジーはどんどん大きなものとなっていくでしょう。

Ｑ：高次の波動の自己実現したパーソナリティーの脳細胞は異なっているのですか、そしてその肉体はそれに適応して変わるのでしょうか？

Ｋ：肉体の全ての細胞は同じではありません、それらは7年ごとに変化しますが、それは科学者達には知られています。脳はバッテリー以外の何ものでもなく、そしてこのバッテリーはそこを通じて情報が得られるように充電されています。しかし、**自己実現した人にとっては、脳は必要ありません。**

**気づきのレベルを、知能とか天才と一緒にするべきではありません。**科学者による発明は良いことにも悪いことにも使われます。なぜなら私たちは対立する二元の世界に住んでいるからであり、それは誤用される可能性があります。

　科学者としての自己実現したパーソナリティーを見つけることはないでしょう。たとえその人の教育がその方向にあっても（＊科学者としての教育を受けていても）、それはただ普通の人間として機能して受け入れられるためのものであり、それ以上ではありません。

Ｑ：否定的なエネルギーが消えないで、それがそれを送った人に７倍の強さで戻る時、どのようなメカニズムが働いているのですか？

Ｋ：それは法則であり、説明はありません。それは原因結果の法則と関係しています。それがどのような部分なのか、何故なのかを判断することはできません。Lifeによる理由があるに違いありません。そしてその理由とは両方の人を助けるためかもしれません。私たちは経験をするためにここに（＊地球）にいます。もし気づきのレベルが、暴力を送った人にやり返すというレベルであるなら、それは更なる暴力をもたらすことになります；暴力が暴力を生み出すことになります。

**挑発にのらないで、そこで終わらせるということは、両者が原因結果の法則を蒙らないということになります。このようにして、挑発や暴力に応えないことによって、相手のためにもなり、そしてまた他の多くの人々のためにもなるのです。**

これが原因結果の法則との関係です。何であれ人間が関係することで、その人間への結果に関しては、そのような選択をすることで恩恵があるのです。

Page5

Q：Widest of Heavens（最も広大なヘブン）に関してですが、それは法則なのですか？

K：Widest of Heavensは、また神です、それは絶対の本質のなかにある特質であり、それはまた行うべきワーク、仕事に関して、神が自分自身を現しているのです。彼女は創造界の大いなる母であり、創造界を出産したのです；全ては彼女を通過する必要があります。彼女はまた聖霊的現れを生むと同時に、全てのロゴス的現れをも生み出します。彼女はまた絶対存在の創造的本質を意味します。イエスキリストの磔の後、Papaya、Widest of Heavensについてはほとんど何も知られていません；人々は彼女は埋められたと言いますが、しかし実際には彼女はアセンションしたのです！

Q：もし自分自身を防御するために誰かを傷つけた場合、それでも原因結果の法則による負債を作ることになるのですか？

K：それは別問題です。自分を守るのはあなたの義務です。誰もあなたの肉体（それは実際にはあなたのものではありません）を傷つける権利はありません。**肉体はアークエンジェル達によって創造されたものであり、従ってそれを守るのがあなたの義務です。**そしてたとえあなたがそこにおいて相手を殺したとしても､実際にはあなたは相手がその出来事でその法則による負債を生み出すのを止めたことになります。

Q：存在する全てのものはその骨組みとして生命の木を持っているのですか？

K：レッスンのなかで述べましたが、Lifeがその本質を完全に現すためには､完全に活性化したこの骨組みが必要です。しかし、この体はそれ自身でLifeの本質を完全に現すのでしょうか？

　私が与える唯一の答えは、次のような例外もあるというものです。つまり、活性化し、あるがままにその骨組みを有し、そして各センターがそれに従って活性化される、そこには異なった役割があるということです。Lifeはただ一つのセンターだけが必要であり、Lifeはこの骨組みを必要としません。

　他のセンターの役割は何処にあるのでしょうか？生命の木に関しては話すべきことがたくさんあります。皆さんがこれまで聞いてきた生命の木に関する内容は一般的なことに過ぎず、この一般的な説明に関する詳細とは、今与えられたことです。創造界の全ての諸法則はこれと共にある、と言うことを知りなさい。

　探求者として皆さんが興味を寄せるべきこと、それは何であれ気づきの上昇のために利用できるものに関することです。人間により安楽を与える手段として提供されるもの、それは今の段階ではありません；その理由はそれがネガティブな側によって、破壊のために反対側によって利用される可能性があるからです。

　アインシュタインは破壊の可能性を認識した時、その仕事を停止しました。しかしもしLifeがそれを許したのなら、究極的には人類を助けるために必要だったのでしょう。

　原子は最大のなかに、そして最小のなかにあります。それは太陽の大きさの中の点と比べることができます。皆さんは最小を想像することができますか？私たちはそれにアプローチするための適切な装置を持たず、科学者でさえそれを見ていません！

　科学者は研究します、そして原子の内側の調和を乱す時、調和及びその原子核のなかの全ての動きの邪魔をするとき、結果が生じます。もし干渉して邪魔すると、その調和を維持している全てのパワーが外側に出てきます、爆発するということです。それ自身を外側で表現するのです。これが原子の中における不調和の結果です；原子の中にある非常に大きなパワーが外側に発せられたのです。

EREVNA PYR 90 KE08 No.13 S3 21/05